

岡山畜産便り1962.10

編集後記

○10月になると秋はかけ足です。各地で稲のとり入れが急がれています。今年はまた豊作記録が更新される模様ですが何はともあれ喜ばしいことでもあります。しかし稲作と畜産との結び付き、競合が問題になるのは田植や秋の農繁期です。畜産農家の数がふえ、あるいは経営内での畜産の規模が大きくなるにしたがって、最近これら労力面の解決が重要な問題になっています。

○経営内での作目はできるだけ整理単純化して、重点作目にしぼっていくのが資金効率や生産性の向上の面で有利であることは論をまちませんが、現段階ではそう簡単に畜産一本に踏みきれないとするならば、やはり稲作など他の作目と、畜産の両面から、機械、施設、新技術の導入、作業の組み合わせ等、いろいろの角度から検討して省力化をすすめる必要があります。現に農業所得100万円を目前に合理化をすすめている農家もあちこちにみられます。

○今月号には肥育牛の季節ということで、和牛の肥育経営について和牛試験場から解説をいただきました。またもうかる和牛経営ということで、名人芸でない普遍的な和牛生産、肥育経営技術をフランクに出しあい、お互いの問題として研究し、積極的な経営を確立することが切望されます。このような具体的な技術解説をどしどしと上げて行きたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

多田技師の北欧の旅から今月号をもって一応完了となりました。先進国の畜産の現況はいろいろ参考となったことと思います。同技師の永らくの御寄稿に厚く御礼申し上げます。

○会費未納の方は至急御納入願います。